

キャラクター名  
十五夜 常依 (もちづき とこよ)

プレイヤー名

シンドローム	エグザイル		ワークス	アーティスト	カヴァー	居候系少女
	エグザイル					
オプション			年齢	18	性別	女性
覚醒	死	衝動	妄想	初期侵食率	35	%
出自	双子	経験	絶縁	邂逅	恩人	

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	179
肉体	4	0	0			4	行動値	5
感覚	2	0	0			2	(非装備時)	5
精神	0	1	0			1	戦闘移動	10
社会	2	0	0			2	全力移動	20

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃			RC			交渉		
回避			知覚	1		意志	3	1	調達		
運転:			芸術: 舞	2		知識:			情報: ウェブ	1	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
		-1				

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	
エンブレム: アフターライフ	
エンブレム: 濃縮体	
思い出の一品	
コネ: 噂好きの友人	
ウェポンケース	

合計装甲: 0    合計回避: 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイ	消費
Dロイス: 超血統P		N		
固定ロイス: 両親P 無関心		N 不快感		
固定ロイス: 龍造寺 吹雪P 信頼		N 食傷		
シナリオロイス: 葛城 ひかりP 感謝		N 猜疑心		
武名治 炎久	P 優しい?	N 不良…?		
桜坂 調	P 好意	N 後ろめたい		
守護精霊	P モフモフ…?	N 強い		

最大財産P: 4    残り財産P: 0

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果:	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果:	コスト分のHPで復活							
異形の刻印	12	-	常時	至近	自身	-	-	
効果:	LV15で取得 最大HP+[LV*5] 侵食率上昇なし 侵蝕率基本値+3							
崩れずの群れ	1	2	オート	至近	自身	-	-	
効果:	カバリング 行動済みでも可							
命のカーテン	1	4	オート	至近	自身	-	-	
効果:	《崩れずの群れ》を使用する直前に使用 そのカバリングは10m離れていても可能に 1シナリオLV回							
歪みの体	2	1	オート	至近	自身	-	-	
効果:	ガード時に使用 ガード値+[LV*3]							
理想投影	1	5	オート	至近	単体	-	120,妄想	
効果:	いつでも使用可能 暴走以外のすべてのバステと任意のエフェクト効果を打ち消し 重圧を受けていても使用可 1ラウンド1回、1シナリオLV回							
	★							
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

「ふふん、私は好きにやらせても r……え?ま、待って、置いてかないでよ！」  
元FHの少女。現在はたまたま訪れた織音島の気質を気に入り、島に定住しつつある写真家の下で居候として静かに日々を過ごしている。斜に構えた態度をとりがちではあるが、今までの経歴からコミュニケーションのとり方がイマイチ分かっていないため。性根は素直、へっぽこ。肉親以外の人間に興味を持っているため、誰かと話してみたいとは思っているお年頃。双子の姉がいるが、とある事情により絶縁状態であるため、二度と顔も合わせたくない。

両親はFHの研究者だった。二人はより強力なオーヴァードを自らの手で生み出すという目的の元、自らの実験の被検体とするために常依と姉を産みだした。被検体ということで、幼い頃から様々な実験や投薬を繰り返されており、その影響もあってか常人よりは壊れづらい体質となっている。理論上は常依も姉も同じ性能となり、異なる能力を有しているが同スペックな2体のオーヴァードが誕生する予定ではあったが、予想と反し姉と比べて妹は数倍以上も劣ったオーヴァードとして覚醒してしまった。その時点で両親の興味は彼女から消え失せ、姉にはさらなる完成度を目指すために今まで通りの実験や投薬だけでなく最大限のバックアップを。失敗作である常依は、廃棄するには今までの量力が勿体無く感じられたため、どこまでであれば耐え切れるのかという耐久テストも兼ねて、彼らの実験で失敗だとされた被検体のチルドレン達との殺し合いをさせられることに。

実験当初は抵抗する手段も有していなかった為やられるがままであったが、幸か不幸か幼少期に無理やり造られた壊れづらい体質によりなんとか死なずにすんだ。しばらくは殺し合いの日々が続いた、そこで生涯で初めての友人を得ることができた。ある日連れてこられたひとりの少女。彼女も自分と同じように、研究者たちの手で生み出され、そして失敗作だと烙印を押されてここに流れ着いたようだった。そんな境遇にも関わらず底抜けに明るい彼女のことを最初は鬱陶しく思ったが、一方的に罵られているだけだった自分を助けてくれたことが何度かあったため次第に心を許していった。近寄ってくる敵は友が殺し、致命的な攻撃は常依が庇う、互いに互いを助け合いつつ何とかして命を繋いでいたが、そんな彼女達にも別れの日が訪れた。実験に新たな刺激を求めた一部の研究者達が、彼女達のみを積極的に狙い続け確実にどちらかを殺せるように他の被検体達を焚きつけた。効果は絶大、二人は分断された後に徐々に追い詰められていく。ここで死んじやうのか、そう思った刹那に迫る凶刃から自分を庇うように目の前に飛び出してくるひとりの少女。彼女は音もなく地に崩れ落ちたが、その際に落ちた彼女の愛用していたナイフを拾い上げ、彼女を守るために生まれて初めて武器を手にして生き残るためにがむしらに殺し続けた。